

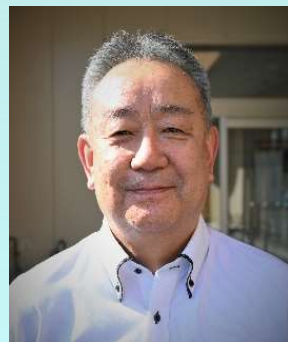
相馬ジャーナル

Souma Journal

April 2024 No.4

僕の夢 私の夢

新たに相馬総合支所長に就任
小山内一仁（おさない・かずひと）支所長
相馬の次代を担う子どもたちを
大事に育てていける地域づくりを



えるような相馬の魅力を
いつまでも伝えていける
ようにしたいですね。

そのために必要なこと
の一つが、次代を担う子
どもたちを大事に育てて
いく環境づくりです。全
国的に少子高齢化が深刻
化していますが、夢や希
望にあふれた子どもたち
がいるのもたしかなこと
その、子どもたちの夢や
希望を大切に育んでいけ
る環境が、「相馬」をい
つまでも伝えていくため
には欠かせないので、な
いでしょうか。そうした
環境づくりを、地域の皆
さんとともに進めていき
たいと思っています。

（談）

四月一日から相馬総合支所の支所長となります。小山内一仁と申します。前部署はスポーツ振興課、その前は文化財課にありました。スキー場やロマントピアとも関わったことがあり相馬との接点は以前からあったんです。もつと言うと、もともと子どもたちには隣の常盤坂に住んでいたのですが、旧相馬村時代のイメージも残っています。たしかに、当時と比べると相馬もずいぶん変わりました。時代や生活様式の変化に合わせて新しくリニューアルすることは大切ですが、一方でこれは相馬に限ったことではありませんが、地域に残るよいものはしっかりと守り次代に伝えていくべきだと考えています。地域外に出た人が相馬に帰ってきたとき、「ああ相馬に戻ってきた」と思

相馬に暮らす、相馬で働く面白い人、頑張ってる人、楽しい人を紹介!



村時代からの除雪技術を継承しながら、
地区の安心・安全のために仕事をしている
相馬直営除雪隊

相馬地区内の除排雪は、弘前市道路維持課の直営（以下…相馬直営除雪隊）でおこなわれている。相馬直営除雪隊は十三名で、その多くが相馬在住だ。湯口から沢田、藍内までの相馬全域、距離にして約五十一キロの道路の除排雪を担っている。

市内を見ると、直営で除排雪しているのは、岩木の一部地区（賀田・五代・一町田・高屋）と相馬のみ。それ以外の地区は市から委託を受けた業者がおこなっている。実は、新設合併したタイミングで業者が湯口・昴・安田の除雪をするようになって



藤沢の福嶋直人隊長、道路維持課の坂本孝規主任技能技師をはじめ、13名が勤務。坂本主任技能技師以外は市の会計年度任用職員として市から雇用されている

「出勤が続くと体力的にキツイ」と語るのは湯口の澤田勲さん。機械を扱うのが好きで、冬しかできない仕事にやりがいを感じるものの、深夜の作業になるため体力的にいつまで続けられるかは不安だという。吹雪で視界不良になった日は神経を使い、心身ともに疲労がたまる。

「相馬は距離にして約五十一キロ除雪をする。五十一キロといっても（除雪車を）ただ走らせるだけじゃなく、いったりきたり、切り替えたり、複雑な動作がある。走行距離的には三倍になることもある。だから思った以上に時間がかかり、大変なんだ。それでも（隊員が）いるのは、わんどの相馬を安全にしたいという思いをみんなが持っているから」と言うのは道路維持課の坂本孝規さんだ。

現在、村時代からの技術を継承し、地域の安全・安心に貢献するメンバーを募集している。ちなみに、大型特殊自動車免許の取得と車両系建設機械運転技能講習の修了を支援する「弘前市資格取得チャレンジ事業費補助金」という制度があるので、興味のある人はチェックしてほしい。

つたが、地域事情に合わない除雪方法により生活が不便になったそう。そこで、地域のことをよく知っている住民が自ら除雪をおこなったほうが良い、ということでも再直営化した歴史があるのだとか。

SOUMA NEWS

相馬で起こったあんなこと、こんなことを一挙掲載!!

「沢田ろうそくまつり」が開催!

2月24日(土)、沢田地区の神明宮で「沢田ろうそくまつり」が行われました。諸事情により、例年より縮小された規模となりましたが、久しぶりにかがり火や囃子隊による演奏、沢田地区で採れた山菜の直売、ミニ炭俵の製作実演などが行われ、地域内外から(なかには東京からいらしたご夫婦も!)多くの方がお参りに訪れました。なお、当日のようはBS朝日の「暦に集う」という番組で3月10日(日)に放映されました。



当日は、協力隊OBの米山竜一さんも応援に駆け付けた

相馬小学校、相馬中学校で入学式が行われました!

春らしい陽気に恵まれた4月5日(金)、弘前市立相馬小学校と相馬中学校で令和6年度の入学式が行われました。新たな門出を向けた新入生たちを、在校生たちだけではなく地域全体で見守っていきましょう。



男子児童4名、女子児童5名の計9名が相馬小新1年生に

新しい駐在さんが着任!



弘前警察署相馬駐在所に新駐在さんがやって来てくれました。佐藤廉(れん) 巡査部長です。弘前市出身の32歳。八戸の駐在所から4月1日付けで相馬にやってきました。「相馬はりんごの地域ですので畑のパトロールを強化したいですし、また子どもたちの見守り、交通事故防止に注力したいと思います」(佐藤巡査部長)



相馬中学校には、22名(男子生徒11名、女子生徒11名)が新入学。相中生として新たな一歩を踏み出した

「相馬郷土かるた」が完成! 無料貸し出しを開始します!!



「棒パンづくり体験」に参加した子どもたちが、かるたづくりも体験



札の裏打ちと収納箱に、地域資源活用事業として紙漉き隊が漉いた高野和紙を使用

相馬凸凹学会と紙漉き隊のコラボで製作を進めていた「相馬郷土かるた」が、ついに完成しました。3月26日(火)には、穂坂隊員が実施した「棒パンづくり体験」イベントに参加した子どもたちに、最後の仕上げを依頼。紙漉き隊が

漉いた和紙に絵札を貼り付けてもらいました。完成したかるたは2セット。当面、個人でも団体でも無料で貸し出ししますので、ご希望の方は地域おこし協力隊までご連絡ください。

地域おこし協力隊 活動通信 2~4月



●二月十二日(月)、十九(月)、二十日(火) 相馬支所内にある交流コーナーに談話・勉強スペースを設置しました。十九、二十日には放課後自習クラブを開催しました(穂坂)。



●二月十一日(日) 相馬地区体育協会主催のスキー大会が行われ、スタッフとして運営をお手伝いしてきました(加賀、穂坂)。

●四月二十五日(木) 地域おこし協力隊応援協議会の総会がありました。

●四月十一日(木) 相馬体育協会の総会に出席し、今後の運営について話し合いました(加賀、穂坂)。



●三月二十六日(火) 相馬ふれあい館にて棒パンづくり体験イベントを実施しました(穂坂)。

●二月二十四日(土) 沢田ろうそくまつりの事務局スタッフとして運営をお手伝いしてきました。(加賀、穂坂。「SOUMA NEWS」に詳細あり)。

●二月二十二日(木) 民生課主催の高齢者教室に参加。りんごケーキときなこもち作りを地域のお年寄りの方々と一緒に楽しみました(加賀、穂坂)。



土を育て、美味しいリンゴを作りたい
長内拓弥(おさない・たくや)さん

祖母の園地を継いだのは四年前。田村ファームでの修行期間を経て、リンゴ農家になりました。田村ファームではシルバーの畳み方や草刈り機の工夫した活用法など、効率的な作業方法について学びました。「社長になりたい!」と思って始めたリンゴ農家は柔軟に仕事ができる反面、考えなければならぬことが多く大変でした。そんななか、相馬の農家のヨコのつながりに助けられていきます。けがをして農薬を撒けなかったり、収穫が間に合わなかったりしたら、互いに協力・助け合う風土が相馬にはあります。今後は土壌改良に力を入れていきます。今年は化学肥料を撒きませんでした。あくまで持論ですが、化学肥料を使わなくても、むしろ使わない方がリンゴ本来の味に近づくとおもいます。土づくりを通して、私の考える美味しいリンゴづくりを追究していきたいです。(談)

紙漉沢在住。
昨年度、狩猟免許を取得し、相馬ハンタークラブに入会。ウサギやクマなどの皮を鞣すこともできる。

大募集!

皆様のご意見、ご要望、取り上げてほしい人やイベント、告知したいことなどを大募集しています。左記、協力隊直通電話かメールアドレスまでご連絡ください。



弘前市相馬地区
公式WEBサイト



穂坂隊員
Instagram



加賀隊員
Instagram

相馬地区広報誌
相馬ジャーナル

April 2024 No.4

◆発行者
相馬地区地域おこし協力隊
〒036-1592

青森県弘前市大字五所字野沢41番地1(弘前市相馬庁舎)
電話:090-3102-6110(地域おこし協力隊)
0172-84-2111(代表)

e-mail: souma.chiikiokosi@gmail.com (地域おこし協力隊)

◆編集
相馬地区地域おこし協力隊(加賀新一郎、穂坂修基)

◆発行日
2024年4月26日

※表紙写真提供:米山竜一